令和 3 年11 月26日

岡山理科大学
獣医学部学生へ

新型コロナウイルス感染症対策 学生用ガイドライン今治版

獣医学部コロナウイルス対策本部

新型コロナウイルスは感染者の唾液や粘液中に存在し、飛沫や接触により感染します。飛沫感染では、患者の咳やくしゃみ、会話により唾液が飛沫となって飛び散り、これを吸い込むことで感染します。接触感染では、患者の飛沫が物に付着し、それに触れた手で口や鼻などを触ることでウイルスが粘膜から感染します。

このガイドラインは愛媛県及び今治市の要請等を配慮するとともに、新型コロナウイルスとともに生活することを考慮して作成しています。新型コロナウイルスワクチンは感染の重症化を避ける効果とともに感染を防ぐ効果もあることが報告されていますが、2回接種しても感染を完全に防ぐことはできず、他者に感染を 広げる可能性があります。当面の間、このガイドラインの内容を遵守して学生は以下の配慮・対策を行ってください。また、「新しい生活様式」や感染リスクが高い5つの場面を意識した行動を実践するように心がけてください。（６ページ参照）

１）全般的な注意事項

(1) 次の条件（３密）を避けてください。

①換気の悪い密閉空間
②多くの人が集まる密集場所
③間近で会話をする密接場面

換気の悪い場所で隣り合って話をするようなときは感染する危険性が高いので、このような場所は避けてください。学内はもとより、学外においてもこのことを守ってください。同級生や友人と集まるときも密閉、密集、密接は避けてください。参加者を減らす、集合している時間を短縮する、十分な距離を置いて参加者を配置する、十分に換気を行うなど、3密を避ける具体的な工夫について「新しい生活様式」や感染リスクが高い5つの場面を参考にして各自で考えてください。

接待を伴う飲食店、ホストクラブ、ショーパブ、雀荘は感染する危険性が高いので行くことは避けてください。

これまでにクラスターが発生した場所等は以下のとおりです。こうした場所に行くときは、感染予防対策を行っているところに行くなど、感染予防に留意してください。

ライブハウス、カラオケ、居酒屋、合唱団活動、スポーツジム、卓球スクール、スキーのゲストハウス、屋形船、懇親会、展示会、密閉された仮設テント、ビュッフェスタイルの会食、パーティ、バーベキュー

クラスターの発生は会食→家族→学校・職場のパターンが増えています。会食する場合は感染予防を徹底し、少人数で短時間としてください。

(2) 愛媛県外への移動

当面の間、愛媛県外に不要不急の移動はできるだけ控えてください。やむを得ず移動し、愛媛県外から今治市（居住が今治市以外であれば居住している市町村）に戻った場合は、その翌日から「新しい生活様式」を確実に実践してください。

独自に移動を規制している自治体あるいは獣医学部コロナウイルス対策感染管理部のリスク評価により移動を制限する自治体がある場合は、その自治体から今治市（居住が今治市以外であれば居住している市町村）に戻った場合は、その翌日から決められた期間は自宅（アパートなど）での観察期間として出校しないでください。移動を制限する自治体は別途Mylogの掲示板に掲示します。ただし、新型コロナウイルスワクチンの2回目の接種から2週間以上経過すれば、自宅待機は免除します。

(3) 県外からの来訪者

来訪者が愛媛県外からの場合は、来訪者が戻った翌日から「新しい生活様式」を確実に実践してください。

独自に移動を規制している自治体あるいは獣医学部コロナウイルス対策感染管理部のリスク評価により移動を制限する自治体がある場合は、来訪者がその自治体から来た場合、来訪者が戻った翌日から決められた期間はアパート（自宅）での観察期間として出校しないでください。ただし、来訪者が新型コロナウイルスワクチンの2回目の接種から2週間以上経過していれば、自宅待機は免除します。

(4) 体調のチェック

何か体調に不安を感じるようなことがあれば、健康管理室（0898-52-9030）または教学・学生支援課（0898-52-9019）（9:00～17:00）に連絡し、相談してください。土日祝日でも連絡できます。（夜間休日は代表0898-52-9000）

「風邪の症状」、「倦怠感」、「息苦しい」などの新型コロナウイルス感染症を疑う症状がでたときは、自宅（アパートなど）にとどまり、以下の窓口に相談してください。そして健康管理室（0898-52-9030）または教学・学生支援課（0898-52-9019）にも報告してください。

今治保健所　0898－23－2500（代）（9:00～17:00）
愛媛県　疾病に関する一般相談窓口　089-909-3468（24時間対応）
帰国者・接触者相談センター　089-909-3483（24時間対応）

新型コロナウイルスに感染していることが判明した時には、必ず健康管理室（0898-52-9030）または教学・学生支援課（0898-52-9019）、夜間休日・休暇期間中は代表0898-52-9000に連絡してください。

(5) 外出時及び学内でのマスクの着用

外出時及び学内ではマスクを着用してください。なお、マスク着用時には熱中症に十分注意

してください。

マスクでは感染を完全に防ぐことはできませんが、濃厚接触を防ぎ、自分が感染しているときに他の人にうつす危険性を減らすことができます。なお、マスクを外すときはマスクの耳当て（ゴムやひも）をつまんで外してください。マスクの表面には触れないようにしてください。マスクを外した後では必ず石鹸で手を洗ってください（アルコール手指消毒剤でも可）。

(6) 手指の洗浄と消毒

外出先から戻ったら、石けん（できれば薬用石鹸）と流水で手をよく洗い、うがいをしてください。手が汚れたと思ったらこまめに手を石けん流水で洗うか、アルコールで消毒してください。

大学の建物や講義室にアルコール消毒液が設置されているところでは必ず手指を消毒してから入棟、入室してください。

(7) 咳エチケット

咳やくしゃみをするときは、１）マスクで口と鼻を覆う、２）口と鼻をハンカチまたはティッシュ―で覆う、または３）口と鼻を曲げた腕の肘で覆うようにしてください。

決して、何も覆わずに咳やくしゃみをしないでください。

咳エチケットをしたら、出来るだけ早く手を石けんと流水で洗ってください。

２）大学での授業などについて

(1) 学内では必ずマスクを着用してください。

(2) こまめに手を洗い、咳エチケットを守って咳やクシャミで飛沫を飛ばさないでください。部屋のドアノブ、机、マイク、物品等からの感染に気を付け、触った後には手洗い・消毒を行うよう努めてください。

(3) 講義室ではできるだけ密にならないように着席するようにしてください。

(4) 室内では窓を開放したままとするか、少なくとも１０分に一度の割合で自主的に換気してください。他者との接触、共有物に接触する頻度が高い授業やゼミでは、他者との接触は極力避け、共有物等に接触した場合は石けんと流水で洗浄するか、アルコールで消毒してください。

(5) 対面で会話が必要な場合は、マスクで口を覆ってください。

(6) 風邪の症状がある者は、理由の如何を問わず（原因特定が難しいため）出校しないでください。風邪症状の学生の欠席は、自己都合によらない欠席として扱われます。保健所に濃厚接触者とみなされた学生もこれに準じます。欠席を希望する学生は、健康管理室（0898-52-9030）へ連絡し、風邪の症状を説明し、自己都合によらない欠席となることを確認してください。

(7) 自己都合によらない欠席をした学生に対する補講は、教員が配慮を行い、プリントやe-learning などを以て代える予定ですので、教員の指示を待ってください。

(8) 授業中に具合が悪くなった学生は、自宅での療養を勧めます。自力で帰宅できない場合は、他の学生から距離をおいた換気の良い場所で待機してください。そして、容体について健康管理

室（0898-52-9030）へ電話で連絡してください。感染症罹患者を増やさないために、本人が健康管理室や事務室、研究室に行かないでください。

(9) 講義室への移動の際には、密閉空間となりますので、エレベーターの使用は自粛して階段を使用してください。

3）食堂・食品を扱う売店でのマナー

(1) 他人が口にする料理に呼気がかからないように、咳エチケットを守ってください。

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響で、学食等で提供できる食事メニューは絞られ、普段は配食されない弁当形式のメニューとなったりもします。事態を理解し、提供されるメニューで食事をしてください。

(3) 咳エチケットを守らない行為、風邪症状のまま入店する行為、大声で飛沫を出しながら喋る行為は、威力業務妨害になりかねません。その場合、そのような行為をする者は食堂・売店より退出してもらいます。

(4) 食堂に入る人数が多すぎる場合は、入場が制限されます。可能であれば時間をずらして利用してください。

密に着席をすることを避けるため、食堂の椅子は通常よりも減らされています。距離をおいた着席に協力し、それぞれに１ｍ程度離れてあるいはアクリル板を挟んで着席して下さい。

友人がそろってから食事を始めることや食事後に長時間滞留することは慎んでください。

(5) 学食に入るときにはアルコールで手指を消毒してください。

(6) 学食の席数が足りないため、弁当を食堂で購入あるいは持参して講義室などで昼食を摂ることを推奨します。この場合も１ｍ以上の間を空けて着席するようにしてください。食堂で食事や弁当を買う際に並ぶときは１ｍの間隔を開けてください。

(7) 食券の購入時に密集しないようにするために、午前中早めに当日の食券を購入することを推奨します。

(8) 学食を利用する際に、感染予防のためにコップ、箸、スプーン、フォークを持参できる学生は持参してください。

(9) 2021.6.9付Mylog掲示板でお知らせした、「食堂営業時間内での座席利用について」を遵守してください。

①黙食の推奨
②スピードシート（15分間）利用
③自習の禁止
④食券の事前購入

4）課外活動（集会・学外活動を含む）について

問題がある場合は速やかに教学・学生支援課(0898-52-9019）へ報告してください。

(1) 発熱や咳、クシャミが出るなどの風邪症状の学生は活動に参加せず、自宅で療養してくださ

い。

(2) 学生が企画する行事や集会は、その必要性や実施時期を検討し、参加者を減らす、集合時間を短縮する、十分な距離を置いて参加者を配置する、換気をするなどの3密を回避する対応を行ってください。不要不急の場合には延期・中止してください。また、電子媒体でのコミュニケーションで代替することが可能であれば、そのような対応をしてください。

(3) サークル活動は、活動計画を提出し、許可を受けてから活動してください。一泊研修を行う場合は、届け出て許可を得てください。

(4) この時期に欠かせない行事・集会を実施する場合は、授業の実施に準じた注意をしてください。参加者相互の直接接触があるもの、共有する物品を触るもの、発声等を伴うものは、以下の注意に配慮してください。濃厚接触の定義は「感染した人が発症する 2 日前から 1m 程度の距離でマスクをせずに 15 分以上会話するなどの接触」なので、そのような事態になりにくいように、対面で話し合う時間は短時間になるようにしたり、待たせる行列等が密着し滞留したりしないように配慮してください。

(5) 複数名が触る可能性のある筆記具の貸し借りは出来るだけ減らし、各自が自分の筆記具を使うようにしてください。また、多人数が利用する部屋、テーブル類は使用頻度に応じて最低一日に 1〜2 回は、石鹸液（界面活性剤含有）で消毒してください。その際には必ずビニール手袋類を利用してください。消毒しにくい器物の操作については、使い捨てビニール手袋類での接触を推奨します。

(6) 参加を希望しない者に参加を強要することはパワーハラスメントになるので、学生同士であっても強要はしないでください。

5）奨学金について

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、経済的困難を抱えた学生に対しては、日本学生支援機構と本学独自の支援制度があります。

(1) 日本学生支援機構奨学金

新型コロナウイルスの為、家計が急変したことから奨学金給付を希望される方は、以下を確認してください。

【給付奨学金】新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けて家計が急変した方への支援
https://www.jasso.go.jp/sp/shogakukin/kyufu/kakei_kyuhen/coronavirus.html

【貸与奨学金】緊急・応急採用奨学金
https://www.jasso.go.jp/sp/shogakukin/moshikomi/kinkyu_okyu/index.html

(2) 岡山理科大学納付金（学費等）の分納・延納制度

入学後の納付金の納入に際しては「分割納入」、もしくは「納入期限の延期」ができます。「分割納入」、「納入期限の延期」をご希望の場合には、納入期限前に「学納金分納（延納） 許可願」を提出してください。

(3) 岡山理科大学授業料減免制度

経済的に困窮し、修学が困難な在学生に対する返済の義務のない「岡山理科大学授業料減免制

度」は、秋学期の授業料に対して実施することから、教学・学生支援課による掲示・連絡に注意をしてください。

上記、奨学金関係で質問がある場合は、教学・学生支援課　学生係（0898-52-9019）（9:00～17:00）に連絡し、相談してください。

6）アルバイトについて

(1) アルバイトをする場合は以下を厳守してください。

①３密（密閉、密集、密接）を避けてください。

②アルバイト中はマスクを着用してください。

③頻繁に手指の洗浄または消毒、うがいをしてください。

7）休日及びアパート（自宅）での生活について

(1) 休日は健康を維持するため十分な睡眠、適度な運動やバランスのとれた食事を心がけてください。

(2) 密閉・密集・密着の状況を避け、ウイルス感染の可能性を低くするようにしてください。

(3) 不要・不急の用事で不特定多数が集まる、換気の悪い人込みに行かないでください。不特定多数が触るドアノブ、スイッチ、引き戸等の部分に触った時は、必ず後で石鹸による手洗いを行い、消毒してください。

(4) 自分１人の無責任な行動が、クラスメイトや大学だけでなく社会全体に影響を及ぼす事を十分認識の上、大学生として自覚を持った行動をしてください。

(5) アパート（自宅）への帰宅時・食事前に必ず手洗いをしてください。新型コロナウイルスは家庭内の色々な物品に付着しても、感染能力がしばらく残ることが指摘されているので、居室においても罹患の自覚の有無に関わらず咳エチケットを守るようにしてください。

(6) 居室等へ複数名が集まることを避けるようにして下さい。複数名 が面会・会話する時はマスク着用やハンカチ類を口に当ててください。これが守れないならば、対面での面会・会話はしないでください。

(7) 発熱や風邪症状が出たら、全般的な注意事項の体調チェックを参照してください。

(8) 罹患した学生は、保健所の指示に従ってください。自宅療養する罹患学生が他者に宅配や買い物代行を依頼する場合は、電話や電子媒体（Email、LINE、ショートメール）を活用してコミュニケーションを取るとともに、相手を罹患させないように商品や金銭の受け渡しの際に濃厚接触にならないよう、咳エチケットや器物類・手指の消毒等に配慮してください。

(9) 吐しゃ物、汚物、廃棄物の消毒が必要な場合は、ハイター類（塩素系漂白剤・次亜塩素酸ナトリウム含有）で行ってください。くれぐれもホースで水をかけて、ウイルス類を跳ね飛ばさないようにご注意ください。

8）公共交通機関の利用

(1) 時間に余裕がある学生は、感染症のおそれが少ないオープンエアーの環境を通る徒歩通学を

お勧めします。

（2）鉄道やバスではできるだけ隣の人と1m以上離れてください。タクシーを利用するときは窓を開けてください。

9）新しい生活様式の実践例（厚生労働省:抜粋）

（1）一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の３つの基本：（１）身体的距離の確保、（２）マスクの着用、（３）手洗い

・人との間隔は、できるだけ２m（最低１m）空ける。
・遊びに行くなら屋内より屋外を選ぶ。
・会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
・外出時、屋内にいるときや会話をするときは、症状がなくてもマスクを着用。
・家に帰ったらまず手や顔を洗う。できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
・手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
※高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際は体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

・感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
・帰省や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
・発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
・地域の感染状況に注意する。

（2）日常生活を営む上での基本的生活様式

・まめに手洗い、手指消毒
・咳エチケットの徹底
・こまめに換気
・身体的距離の確保
・「３密」の回避（密集、密接、密閉）
・毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養

（3）日常生活の各場面別の生活様式

買い物

・通販も利用
・１人または少人数ですいた時間に
・電子決済の利用
・計画をたてて素早く済ます
・サンプルなど展示品への接触は控えめに
・レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

・公園はすいた時間、場所を選ぶ
・筋トレやヨガは自宅で動画を活用
・ジョギングは少人数で
・すれ違うときは距離をとるマナー
・予約制を利用してゆったりと
・狭い部屋での長居は無用
・歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

・会話は控えめに
・混んでいる時間帯は避けて
・徒歩や自転車利用も併用する

食事

・持ち帰りや出前、デリバリーも
・屋外空間で気持ちよく
・大皿は避けて、料理は個々に
・対面ではなく横並びで座ろう
・料理に集中、おしゃべりは控えめに
・お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

冠婚葬祭などの親族行事

・多人数での会食は避けて
・発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

10）感染リスクが高い5つの場面

場面１　飲酒を伴う懇親会等

・飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
・特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
・また、回し飲みや箸などの共用は感染のリスクを高める。

場面２　大人数や長時間におよぶ飲食

・長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
・大人数、例えば５人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。

場面３　マスクなしでの会話

・マスクなしの近距離で会話することで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
・マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
・車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。

場面４　狭い空間での共同生活

・狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
・寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。

場面５　居場所の切り替わり

・仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
・休憩室、喫煙室、更衣室での感染が疑われる事例が報告されている。

以上